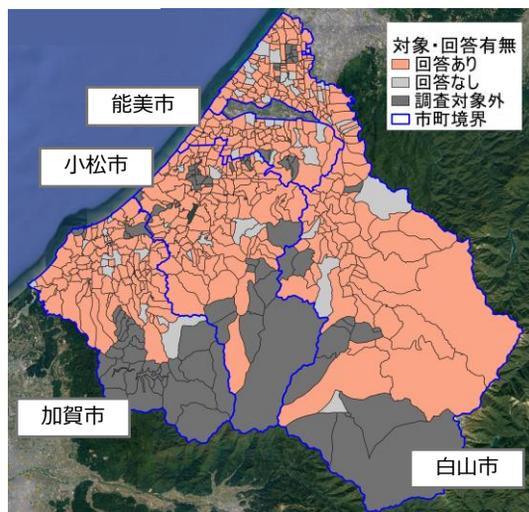


令和5年度野生動物出没被害等アンケート調査の結果について

本県では、野生動物の捕獲対策や被害対策をより効果的に推進するために、農業集落単位で、野生動物の出没状況や被害状況に関するアンケート調査を実施しました。その結果を下記のとおり報告します。

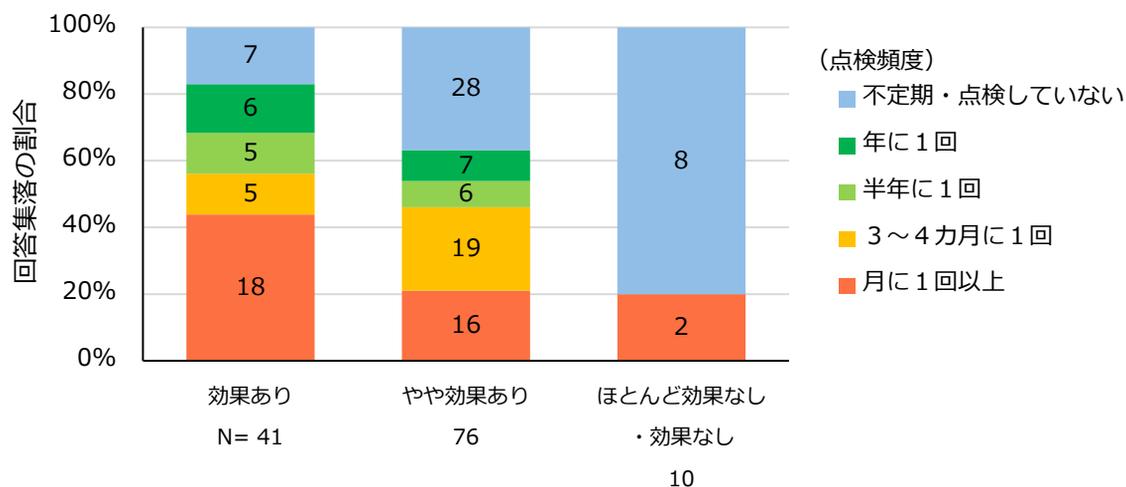
本年度は、加賀市、小松市、能美市、白山市を対象に調査を実施し、計486集落の生産組合長等の皆さまにご回答いただきました。非常に多くの方々からのご協力に感謝いたします。



防護柵の点検を「月に1回以上」

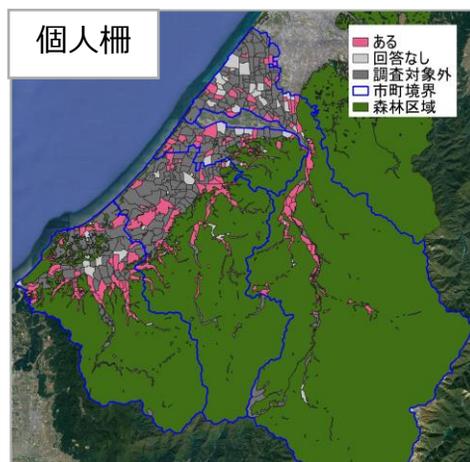
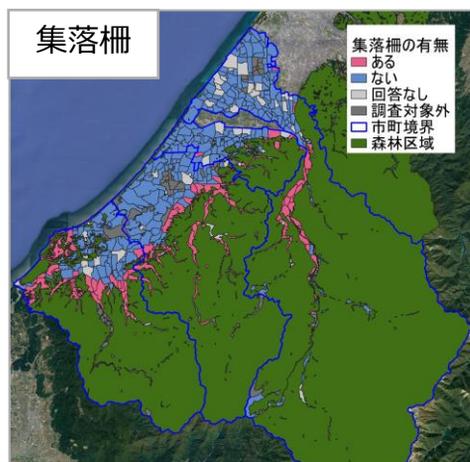
実施している集落ほど、被害防止効果を実感

イノシシに対する防護柵の被害対策効果を聞いたところ、点検頻度が多いほど被害対策効果が高いことが分かりました。「月1回以上」の点検体制を作ることが重要です。



集落柵は山間部、個人柵は山間部と平野部に設置されている

集落柵を設置している集落の割合は32.0%
個人柵を設置している集落の割合は43.2%でした。



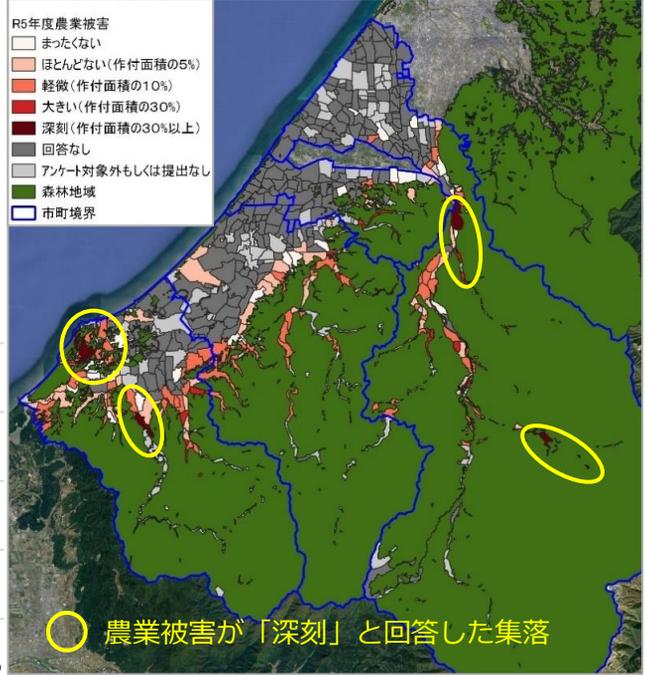
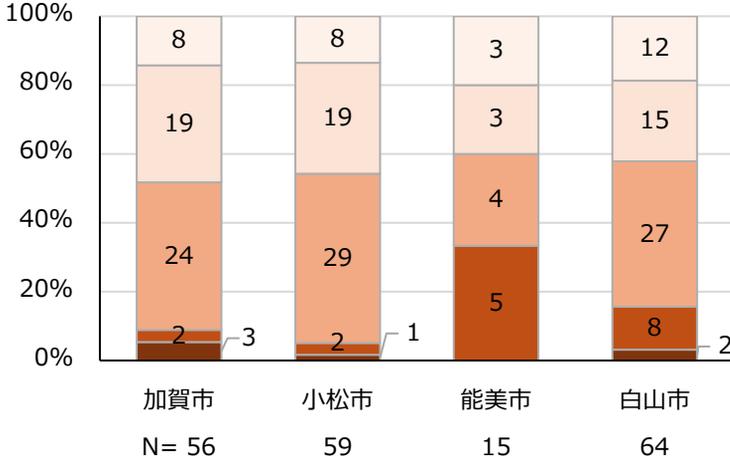


イノシシ 令和5年度の農業被害は3分の2が軽微以下

農業被害が「軽微」「ほとんどない」「まったくない」全体的の3分の2を占めました。ただし、一部の集落では、農業被害が「深刻」「大きい」と回答していました。

(農業被害の程度)

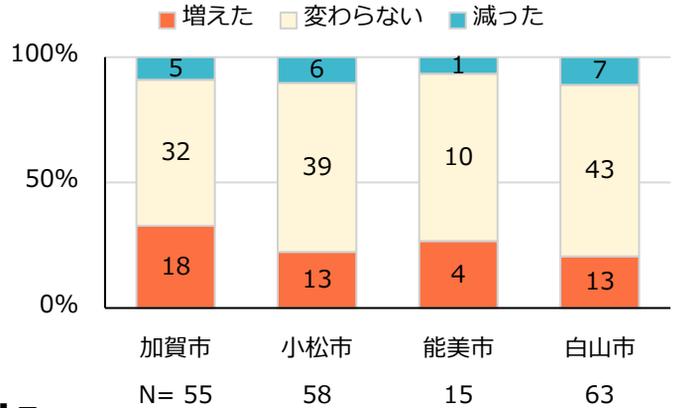
- まったくない
- ほとんどない (作付面積の5%)
- 軽微 (作付面積の10%)
- 大きい (作付面積の30%)
- 深刻 (作付面積の30%以上)



令和4年度よりも令和5年度に農業被害が増えた集落の割合は21~33%

令和5年度の農業被害は、全体的に「まったくない~軽微」ととどまっているものの、令和4年度より増加傾向にある集落も見られています。

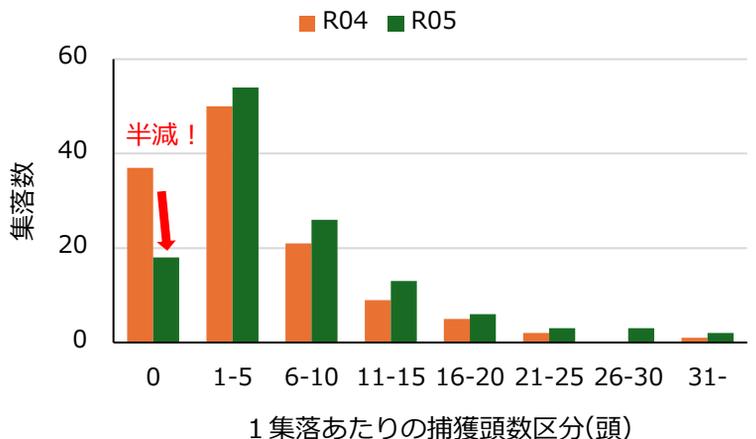
豚熱からイノシシの生息頭数の回復に伴い、今後も農業被害の増加に注意していく必要があります。



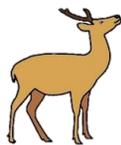
有害捕獲頭数は令和5年度に増加

令和5年度に捕獲頭数0頭の集落は、令和4年度よりも半減し、捕獲実績のある集落が増えました。

豚熱からイノシシの生息頭数の回復に呼応して、有害捕獲も強化されてきています。



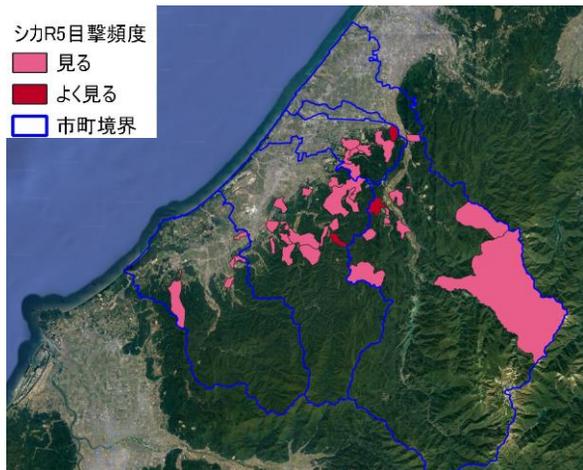
ニホンジカ



国道8号線以南での目撃が多い

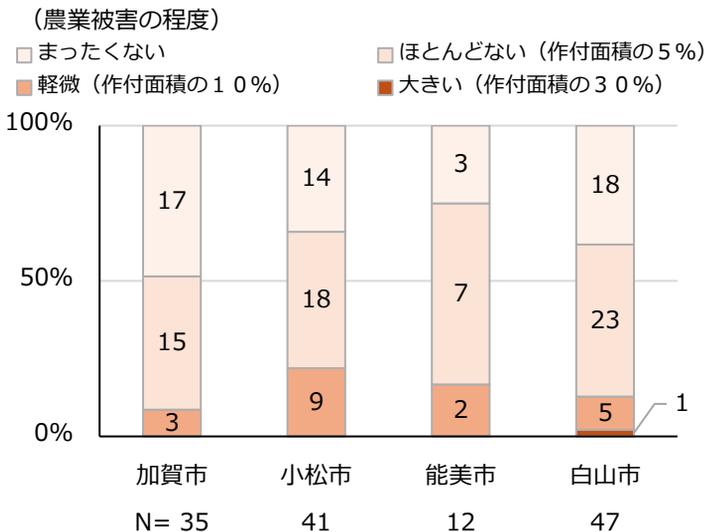
ニホンジカを「見る」「よく見る」と回答した集落は国道8号線以南の山裾周辺に集中していました。

シカR5目撃頻度
 見る
 よく見る
 市町境界



ニホンジカの農業被害は少ない

ニホンジカの農業被害が「大きい」と回答したのは1集落のみでした。ほとんどの地域で農業被害はまだ顕在化していない状況でした。

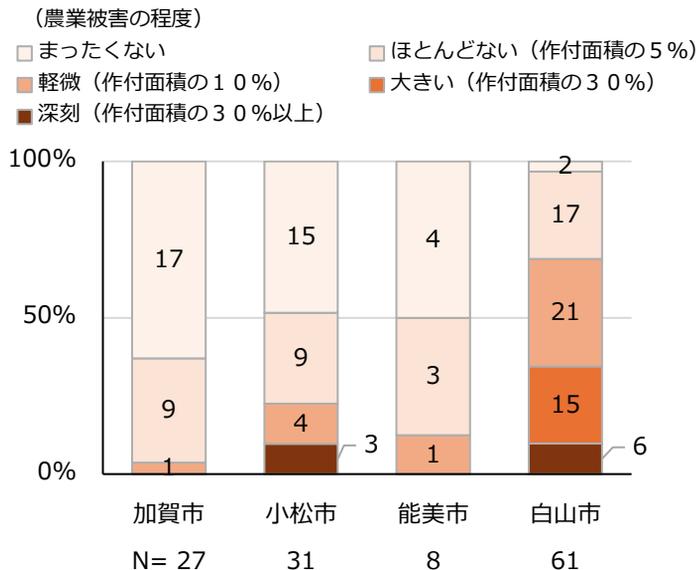
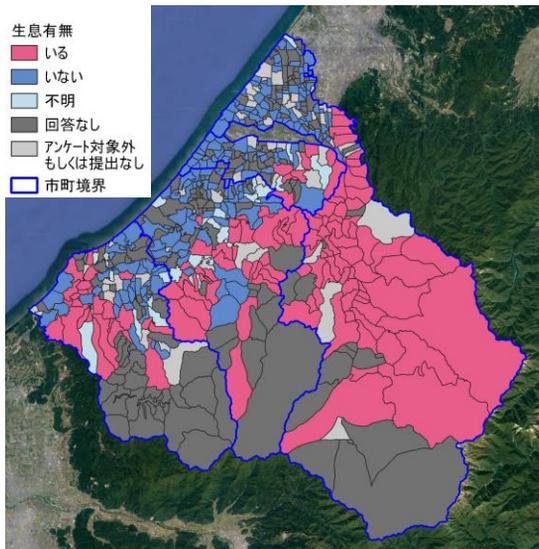


ニホンザル



群れが生息する白山市、小松市で被害が大きい

群れの分布は、白山市手取川周辺だけでなく、小松市にも拡大しています。ハナレザルは、能美市や加賀市でも確認されました。農業被害は、群れが確認されている白山市や小松市で「深刻」「大きい」と回答した集落がありました。



ツキノワグマ

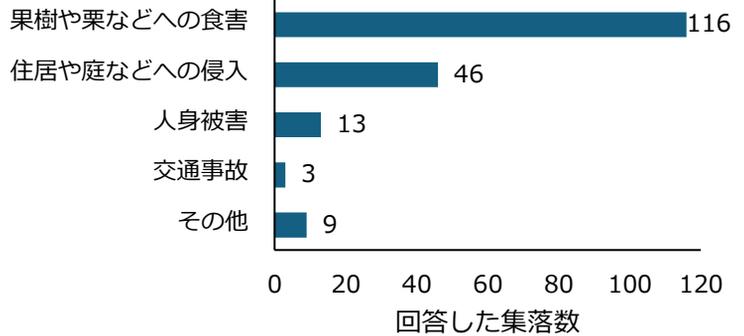
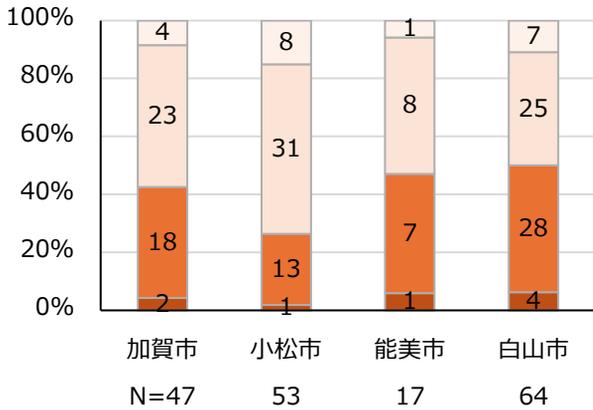
令和5年度にツキノワグマの出没が「非常に多い」「多い」と回答した集落は26～50%でした。

被害内容では、「果樹や栗などへの食害」が最も多くなりました。



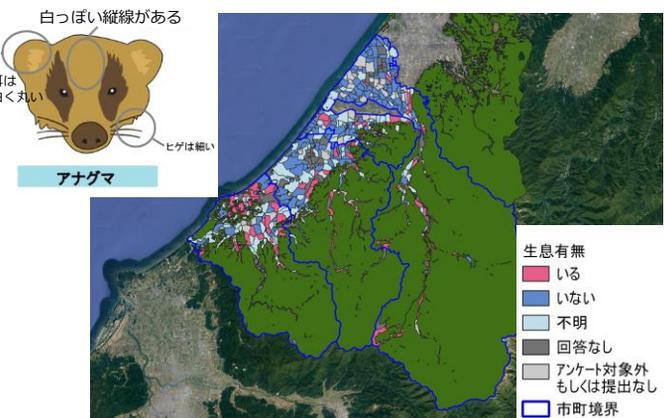
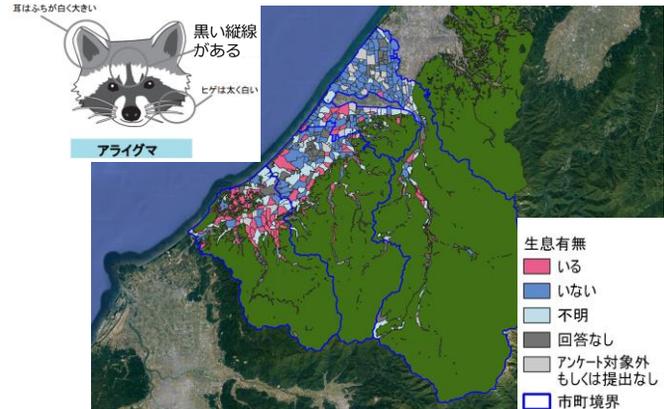
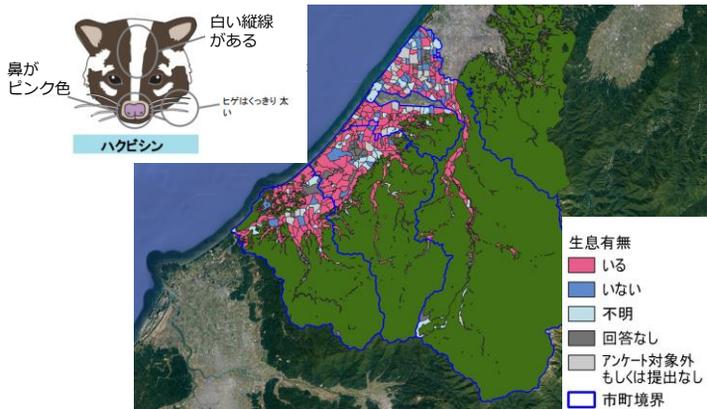
(出沒状況)

■ 非常に多い ■ 多い ■ 少ない ■ まったくない



中型動物

ハクビシンとタヌキは広い範囲で「いる」と回答がありました。アライグマとアナグマは「いない」と回答した集落の方が多くなりました。見分け方は、顔の特徴をご確認ください。



中型動物のイラストは環境省「狩猟鳥獣の見分け方～誤認捕獲の防止のために」より引用

発行元：石川県農林水産部里山振興室